

※本資料は今後の方針策定に向け、方針本編の構成案を検討会用に取りまとめたものです。  
詳細の内容や紙面デザイン等は今後見直し・深度化を図っていきます。

# はぐくみの軸強化方針

(本書イメージ)

令和〇年〇月

札幌市

# 目次

---

## 第1章 目的と位置づけ

- 1-1. 背景と目的
- 1-2. 位置づけ
- 1-3. 計画期間
- 1-4. 対象エリア
- 1-5. 本方針の活用イメージ

## 第2章 はぐくみの軸を取り巻く現状・課題

- 2-1. 歴史的背景
- 2-2. エリア全体での現状・課題
- 2-3. まちづくりの動向
- 2-4. 関連する上位計画

## 第3章 はぐくみの軸の将来像と取組の方向 今回主にご議論頂く内容

- 3-1. 重視すべき視点、理念および目指すべき将来像の設定
- 3-2. 将来像実現のための取組の方向

## 第4章 ゾーン別の強化方針

- 4-1. ゾーン区分の設定

今回主にご議論頂く内容

- 4-2. 全ゾーン共通の取組の方向

- 4-2. ゾーン別の現状と課題、取組の方向

参考 . 将来像、方針、想定する対象ゾーン、取組例一覧

## 第5章 重点的に進める取組

## 第6章 方針の推進体制

次回主にご議論頂く内容

## 第1章 目的と位置づけ

---

この章では、計画の背景や計画期間などの概要と、本方針の策定イメージを示しています。

## 1-1. 背景と目的

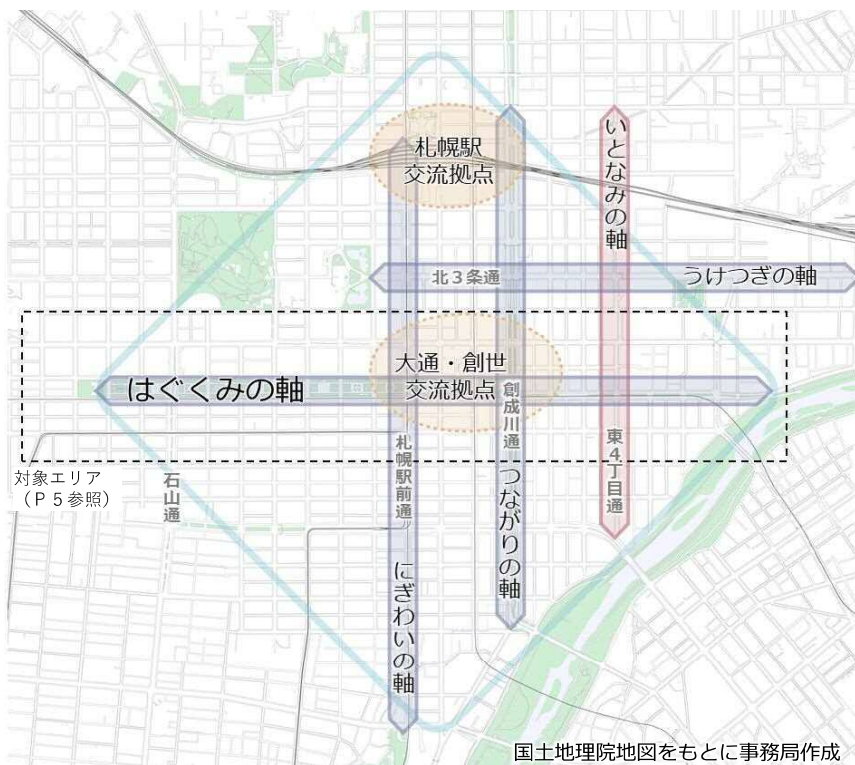
「はぐくみの軸強化方針（以下「本方針」という。）は、札幌都心の強化軸の一つに位置づけられる大通沿道において、目指すべき都市像の実現に向けた取組の方向をテーマ別に整理したものです。都市開発の機運の高まりに合わせた地域特性を生かしたまちづくりを促進し、札幌市民が世界に誇れる、魅力と活力にあふれる札幌都心の実現に寄与する事を目的としています。今後建替えやリノベーションを含めた沿道のまちづくりを行う際に、市民・企業・行政等が共有するものです。

札幌市は令和4年8月に市制施行から100周年を迎えました。その間に人口は200万人規模に成長し、政令指定都市としても発展してきました。一方、近年は生産年齢人口の減少に伴う経済縮小の見込みや、総人口の継続的な減少や超高齢社会も現実味を帯びてきており、成熟社会を支えるための都市づくりが必要となっています。また、地球環境問題に対応した脱炭素社会の実現の必要性も高まっており、災害に強い都市づくりに対する社会的要請も高まっています。また、昭和47年の札幌オリンピックを契機に建設されたビル等の更新時期の到来や新型コロナウイルス感染症の拡大など、様々な課題があります。これらを踏まえ、今後は社会情勢の変化に合わせた都心のまちづくりが必要であると言えます。

札幌のまちが次の100年も魅力と活力を創造していくため、札幌の都市形成を支えてきた大通公園を含む「はぐくみの軸」について、札幌のまちを形成する根幹となる歴史を備える東西軸として魅力を高めていくことが重要です。平成28年に策定した「第2次都心まちづくり計画」においても、都心のまちづくりを支える骨格構造として、はぐくみの軸の強化を図っていくこととしています。民間施設の更新時期を迎え、その沿道において再開発の動きが活発化しているこの機を捉え、はぐくみの軸におけるまちづくりの方針を策定することにより、良質な空間形成につながる開発を誘導すること等を通じて都心の魅力を高めていく必要があります。

これらの背景を踏まえ、「はぐくみの軸強化方針」を策定することにしました。

### 大通とはぐくみの軸の役割



#### ・大通

明治初期に設置されて以降、時代に合わせて姿を変えながら、札幌のまちづくりを支える基盤としての役割を果たしてきた貴重な資源。

#### ・大通を含むはぐくみの軸

都心の南北を貫く都心まちづくりの骨格軸（駅前通、創成川通、東4丁目通）を東西方向に横断し、都心のまちづくりを面的に連結していく上で極めて重要な都心の骨格軸。

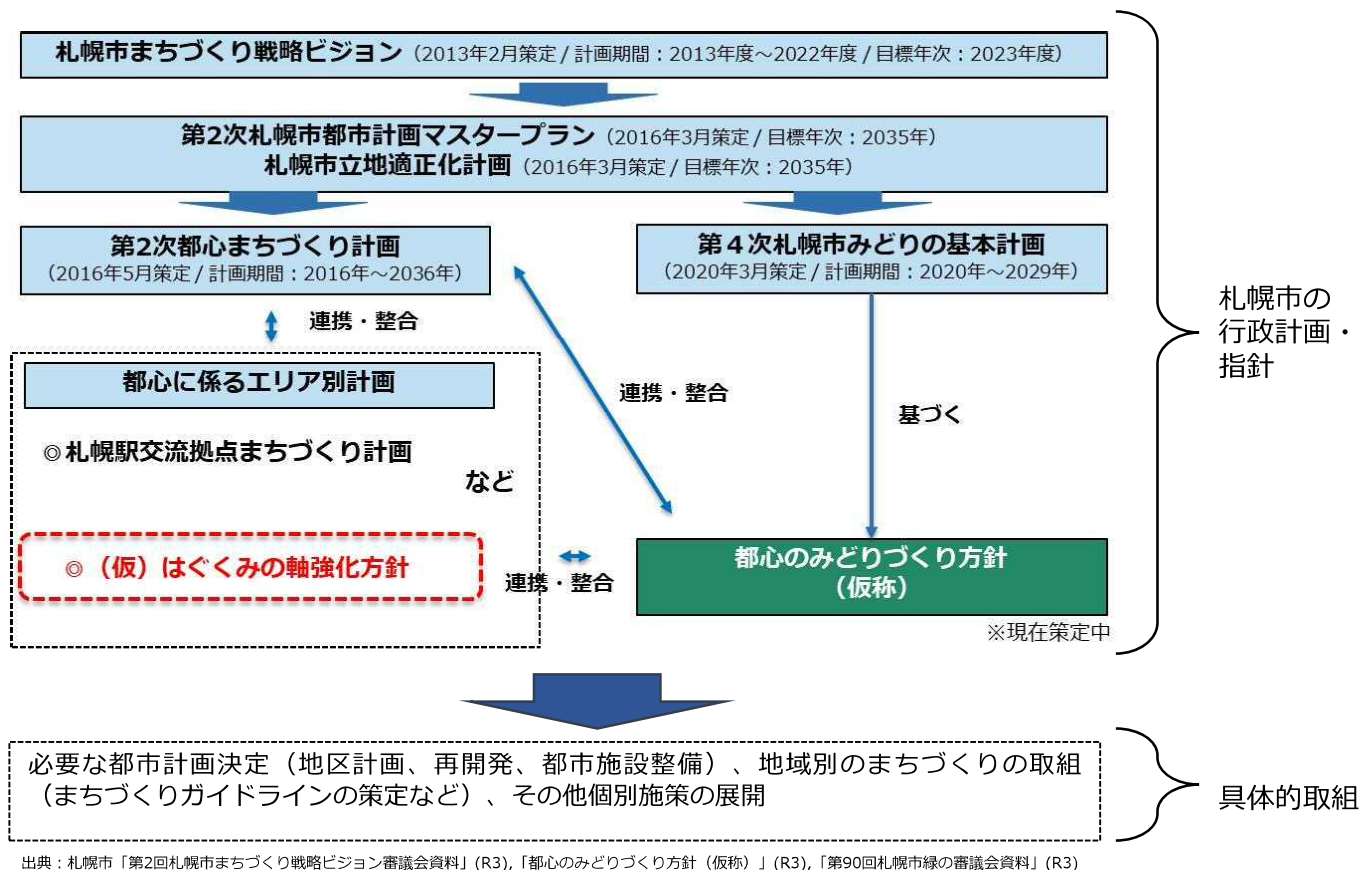
都心の開発機運の高まりに合わせて、大通及び大通周辺の資源を活かした良質な都市空間の形成を図り都心の魅力を高めていくため、はぐくみの軸におけるまちづくりの方針の策定が必要。



## はぐくみの軸強化方針 策定の目的

- 都心の東西軸としての魅力を強化していくため、都市開発の気運の高まりに合わせて強化方針を策定し、大通公園などの地域特性を生かした沿道のまちづくりを促進していく。
- そして次の100年に向け、時代の流れに柔軟に対応しながら新たな価値を創造し続け、札幌市民が世界に誇れる、魅力と活力にあふれる札幌都心の実現に寄与することを旨とする。

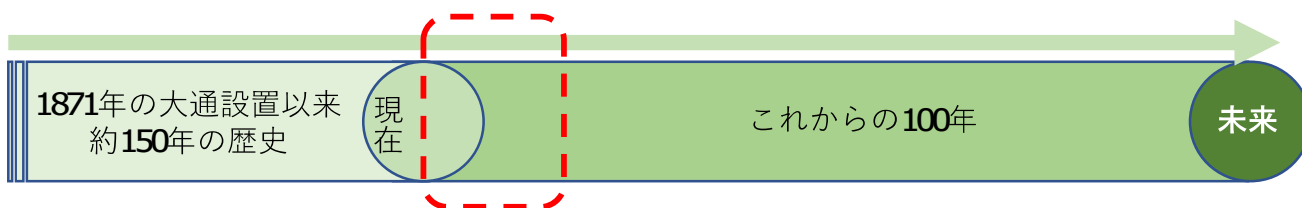
### 1-2. 位置づけ



### 1-3. 計画期間

本方針の計画期間は、(仮称)第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンが2040年代を見据えた内容とすること、また、第2次札幌市都市計画マスタープラン、札幌市立地適正化計画、第2次都心まちづくり計画が策定から概ね20年を目標年次・計画期間としていることを踏まえ、策定から20年とします。

これからの100年先の未来に向け、最初の20年間ではぐくむべきものを本方針で提示します。



次の100年に向けた最初の20年間を、本方針の策定期間とする

## 1-4. 対象エリア

東西は第2次都心まちづくり計画上の都心の西端から東端まで（東西約2.5km）  
南北は大通沿道の概ね南北1ブロック（南北約350m）のエリアとします。

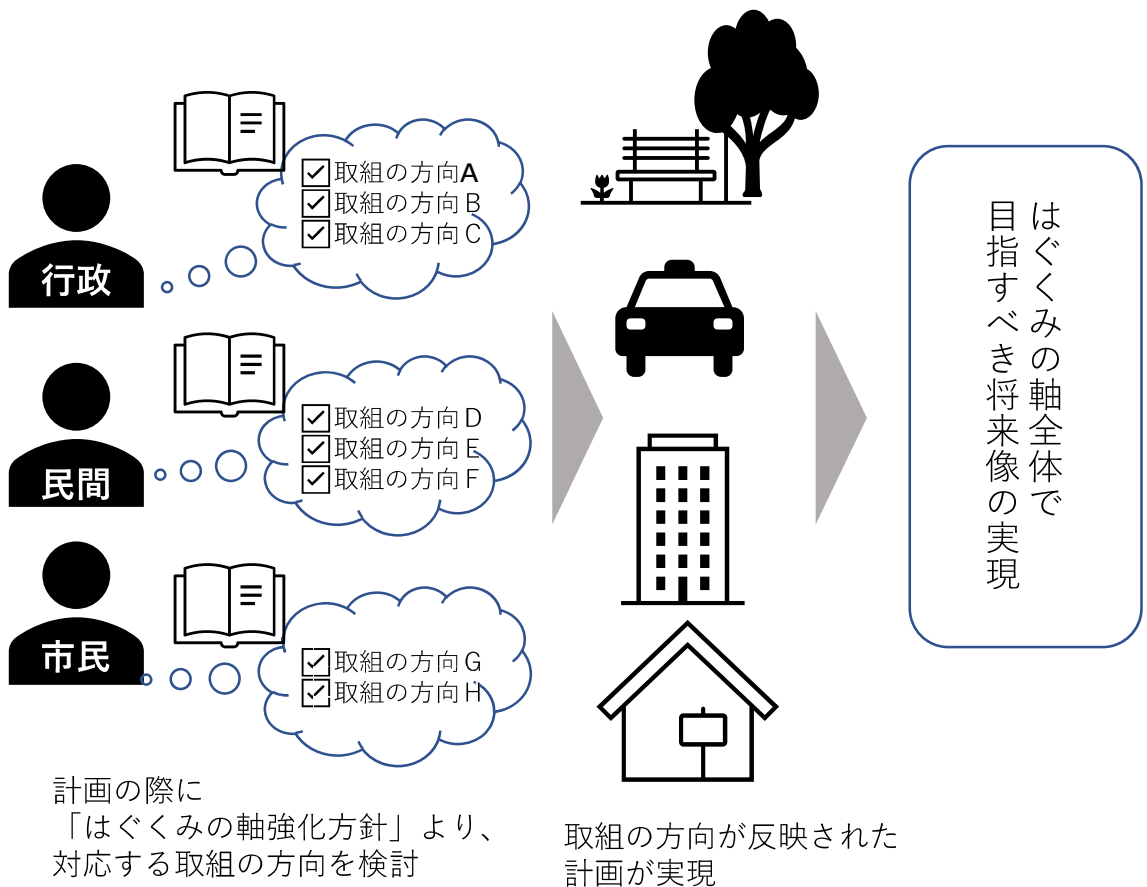
：対象エリア



## 1-5. 本方針の活用イメージ

本方針は、市民・企業・行政等が新たな開発や既存施設の改修等を含めた沿道のまちづくりを計画する際に参考にしていくものです。各計画が、後述の「目指すべき将来像」や「取組の方向」の内容を参考に、具体的な取組を検討・実施していくことで、将来的にははぐくみの軸全体で「目指すべき将来像」が実現していくことを目指しています。

新たな開発や既存施設の改修等を計画する関係者



## 第2章 はぐくみの軸を取り巻く現状・課題

---

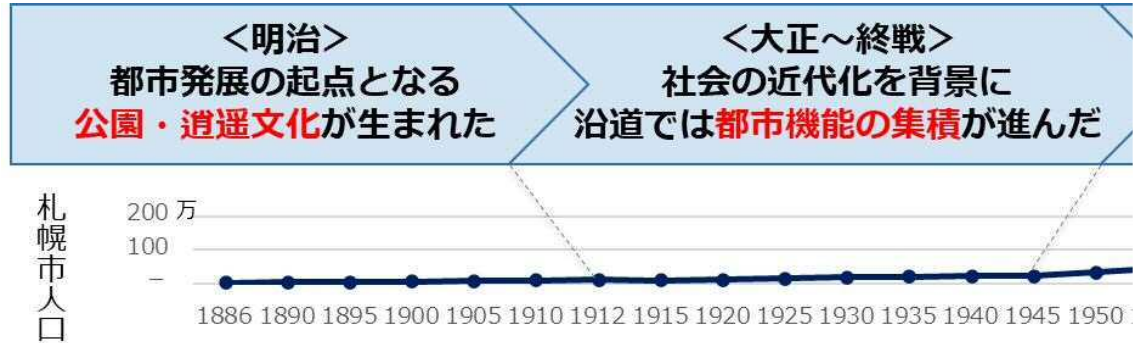
この章では、はぐくみの軸が目指すべき将来像を導き出すための手掛かりとして、歴史的背景やエリア全体での現状・課題、参考とすべきまちづくりの動向、関連する上位計画などを分析、整理しています。

## 2-1. 歴史的背景

大通沿道のまちは、時代に合わせて姿を変えながら、札幌を支える基盤としての役割を果たしてきました。将来に向けて、明治時代から受け継がれてきた大通の歴史性を踏襲しつつ、時代に求められるものに対応したまちの更新を図っていく必要があります。

抽出する視点：「札幌を支える基盤」として役割を果たしてきたレガシー

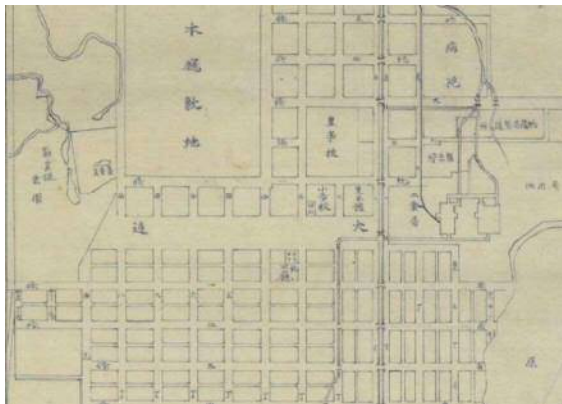
札幌市の人口の変化



大通周辺の歴史の変遷

主な出来事（明治）

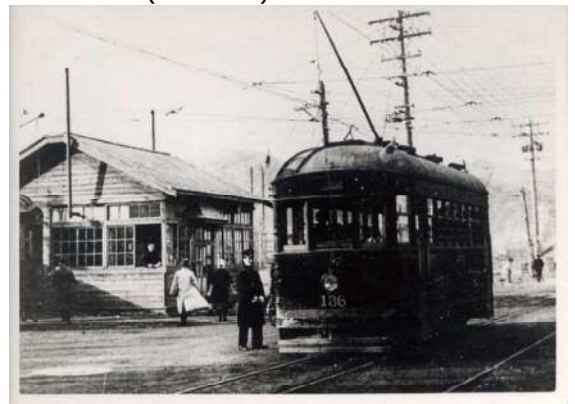
- 1871年（明治4年）大通設置
- 明治中期、公園としての整備が進む
- 北は官、南は民、それを繋ぐ大通の位置づけが確立



明治初期  
出典：札幌市中央図書館デジタルライブラリー

主な出来事（大正～終戦）

- 1918年(大正7年)路面電車開業
- 1926年(大正15年)現在の札幌市資料館である札幌控訴院が完成
- 1927年(昭和2年)路面電車市営化



昭和12年頃の札幌市電  
出典：札幌市公文書館所蔵



明治末頃の大通公園  
出典：札幌市「札幌のまちとともに歩んだ公園」(H28)  
／札幌市文化資料室



完成当時の札幌控訴院(現：札幌市資料館)  
出典：札幌市中央図書館デジタルライブラリー



＜終戦～昭和＞  
人口の増加に伴い  
急速な都市基盤整備が進んだ

＜平成～令和・将来へ＞  
人口の減少が将来的に見込まれる中  
都市の成熟化が進展し、新たな局面へ



出典：札幌市「札幌市統計書」(R2)、DATA-SMART CITY SAPPORO「将来推計人口の推移」より

主な出来事（終戦～昭和）

- さっぽろ雪まつりやホワイトイルミネーション等大通のイベント利用が始まる
- 1972年(昭和47年)札幌冬季五輪開催と同時期に地下鉄や地下街が整備



第1回さっぽろ雪まつりの会場  
出典：札幌市公文書館所蔵

主な出来事（平成～令和）

- 2018年(平成30年)さっぽろ創世スクエアしゅん工
- 2011年(平成23年)札幌駅前地下歩行空間開業



さっぽろ創世スクエア  
出典：（事務局撮影）



建設中の地下街（1971年10月撮影）  
出典：札幌市公文書館所蔵

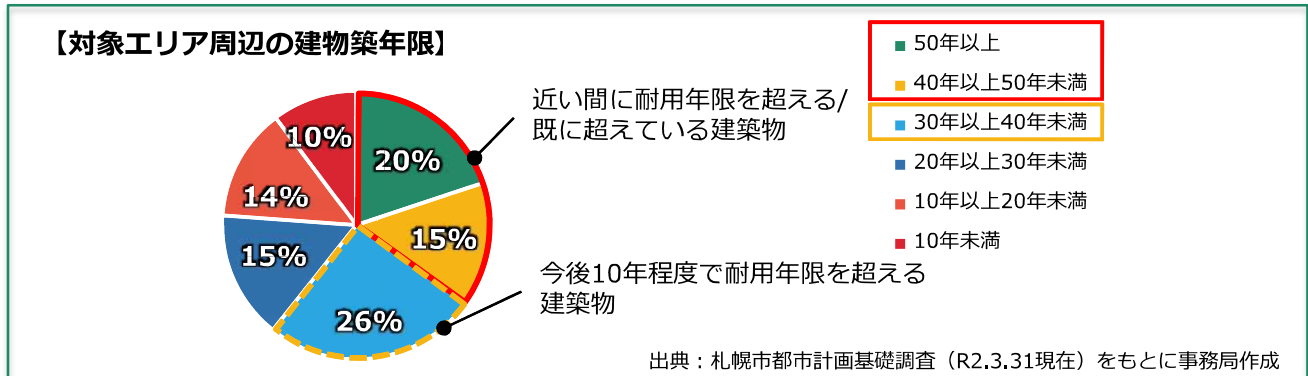


札幌駅前地下歩行空間  
出典：さっぽろ観光写真ライブラリー

## 2-2. エリア全体での現状・課題

### 1) 沿道建物の更新時期

- 沿道においては、今後10年間で鉄筋コンクリート造建物の耐用年限と考えられる建築後**40年～50年を迎える建物が多く、既に耐用年限を超えている建築物や近い間に耐用年限を超える建物を合わせると全体の6割を占める。**



### 2) 周辺の開発動向

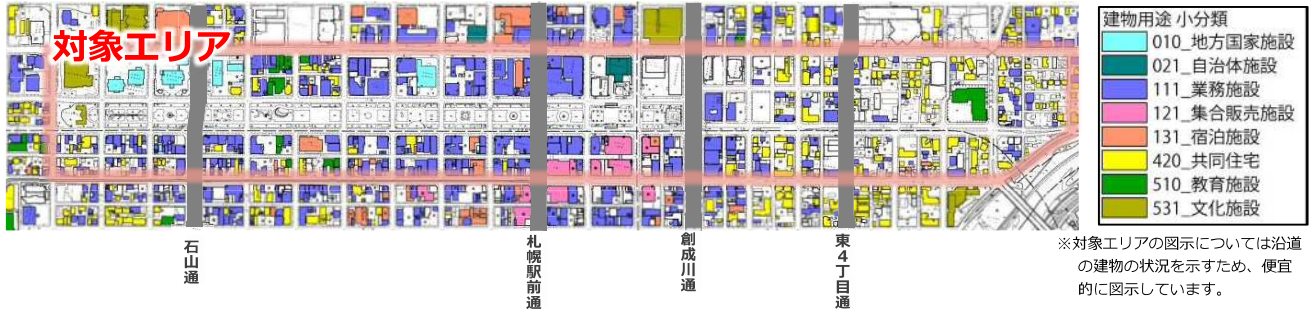
- 特に、大通・創世交流拠点周辺では**地区計画等を活用した開発**が行われており、機能更新が進んできた。
- 一方で、大通公園西周辺エリアや、創成イーストエリアなどでは、**個別の建て替え事業以外での土地利用**は進んでいない。
- 今後、札幌駅交流拠点において大規模な機能更新をはじめ、まちづくりを支える展開軸（いとなみの軸）である東4丁目通のクランク形状の解消や歩道拡幅などを目的にした整備、さらには札幌都心アクセス道路の整備が予定されるなど、**都心全体で機能更新が進んでいく**

抽出する視点：「大通沿道建物の更新時期」の到来

### 3) 周辺の開発動向

#### ア. 機能分布図

- はぐくみの軸沿道は創成川以西は主に**業務施設が多く集積**しており、西側に行くにつれて**地方国家施設や文化芸術施設、住宅が散見**されるようになる。
- 一方で創成川以東については**共同住宅が多く分布**する。



出典：札幌市都市計画基礎調査（R2.3.31）をもとに事務局作成

#### イ. 実容積率別分布図

- 大通と駅前通の交差点に特に高容積率の建築物が集積している。**




出典：札幌市都市計画基礎調査（R2.3.31）をもとに事務局作成

#### ウ. 機能分布の変化

- 対象エリア内では、近年沿道地域での**住環境整備が進み**、それに伴い**保育施設も増加している。**

【2021年9月時点の共同住宅・保育施設】  
保育施設位置・住宅施設位置：事務局調べ

計画対象エリア（内）において、  
共同住宅の棟数が25年程で約**1.8倍**（62棟⇒110棟※）増加しており  
保育施設は9件（3件⇒12件※）増加している。  
（※図着色箇所集計結果による）



抽出する視点：「大通沿道建物の機能分布」の変化



#### 4) 地下歩行ネットワークの整備状況

- 対象エリア内には、東西方向に地下鉄コンコースや札幌地下街「オーロラタウン」があり、南北方向に札幌駅前通地下歩行空間やさっぽろ地下街「ポールタウン」があり、また、それぞれの地下空間に建物が接続しているなど、**地上-地下の回遊性が高いエリア**となっている。



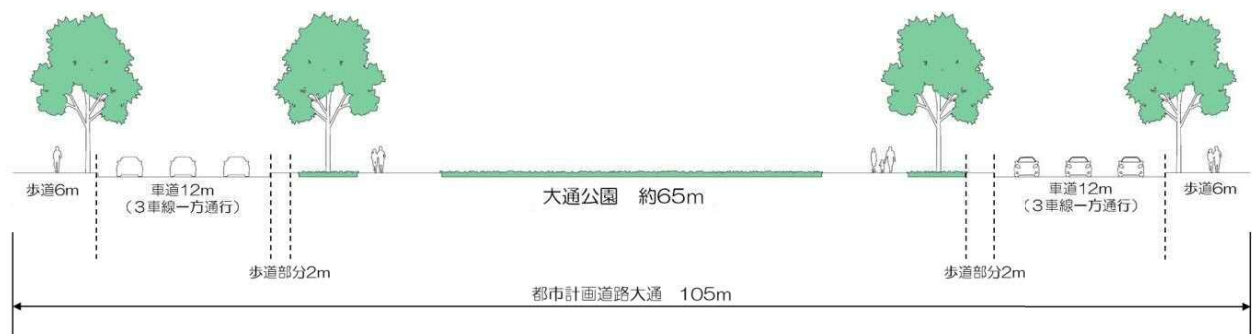
抽出する視点：地上-地下の「回遊性が高い」エリア

#### 5) 大通公園の整備状況

- 札幌市の中心部に位置し、大通西1丁目から大通西12丁目までの**長さ約1.5km、面積約7.89haの特殊公園。**
- 1989年から6年かけて再整備工事が実施され、1993年にはイサム・ノグチ（モエレ沼公園の基本設計者）の作品「ブラック・スライド・マントラ」が8丁目と9丁目間の道路に設置され、**大通公園が一部連続化された。**
- 美しい花壇や芝生、約90種4,700本におよぶ樹木のほか、ライラックまつり、YOSAKOIソーラン祭り、雪まつりやホワイトイルミネーションなど、四季折々の美しい植物やイベントなどにより、**1年を通して多くの市民や観光客に親しまれている。**
- 国際都市札幌のシンボルとして、『**交流**』・『**オアシス**』・『**つどい**』・『**フロンティア**』・『**花**』の**5つのテーマと5つのゾーン**で構成されている。



<大通断面イメージ>



抽出する視点：大通公園の「景観・観光資源」としての価値、「都心の魅力」を高めるみどり



## 6) 大通公園沿道の街並み

- 大通公園から大倉山を一直線に臨むことができる景観は、都市と自然が調和した、札幌の都市イメージを象徴する資源の一つ。



抽出する視点：大通公園の「景観・観光資源」としての価値

## 7) 市民・観光客の声

これまでの市民アンケートの結果や  
今後実施するオープンハウスの意見内容を反映

## 8) 都心に位置する広大な憩いの空間としての大通公園

- 大通公園は都市の中心部に**みどりと憩いの空間を有する、稀有な資源**であると言える。



※出典の記載のない画像は、さっぽろ観光写真ライブラリーより引用及び事務局で撮影したもの

抽出する視点：「都心の魅力」を高めるみどり



## 9) 冬の資源

- 都市空間が雪に覆われた風景は、**札幌独特の美しい景観**を生み出している。
- 雪まつりやスノースポーツフェスタなど、冬季ならではのイベントも数多く開催され、**冬の風景は札幌を象徴する重要な資源**となっている。



冬の大通公園



さっぽろ雪まつり

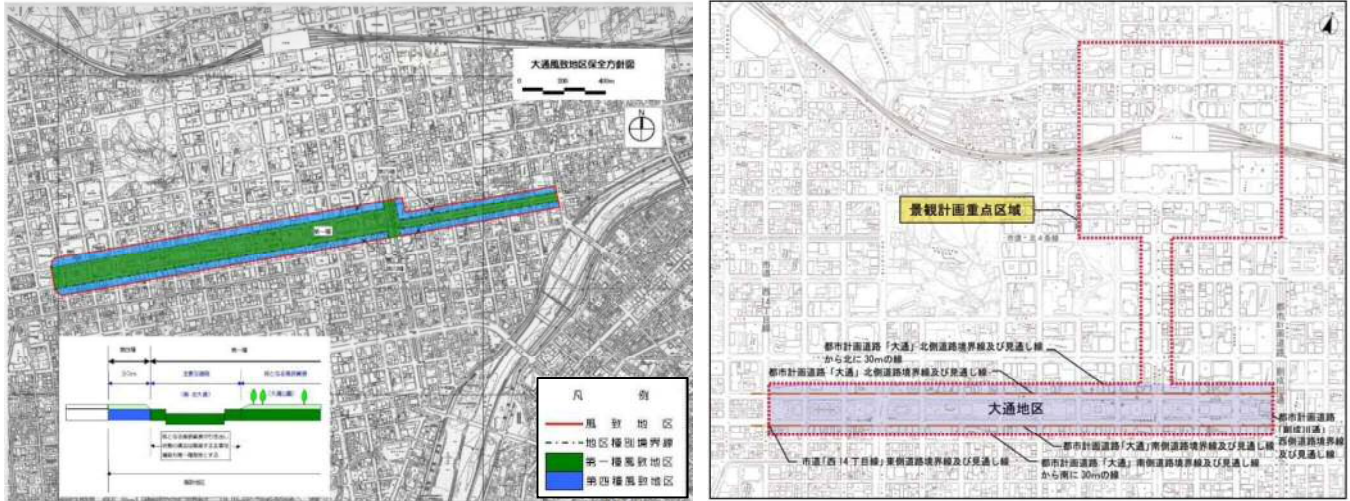


ミュンヘンクリスマス市

抽出する視点：大通公園の「景観・観光資源」としての価値

## 10) 景観的な位置づけ

- 大通沿道は、「**風致地区**」及び「**景観計画重点区域**」に指定されている。

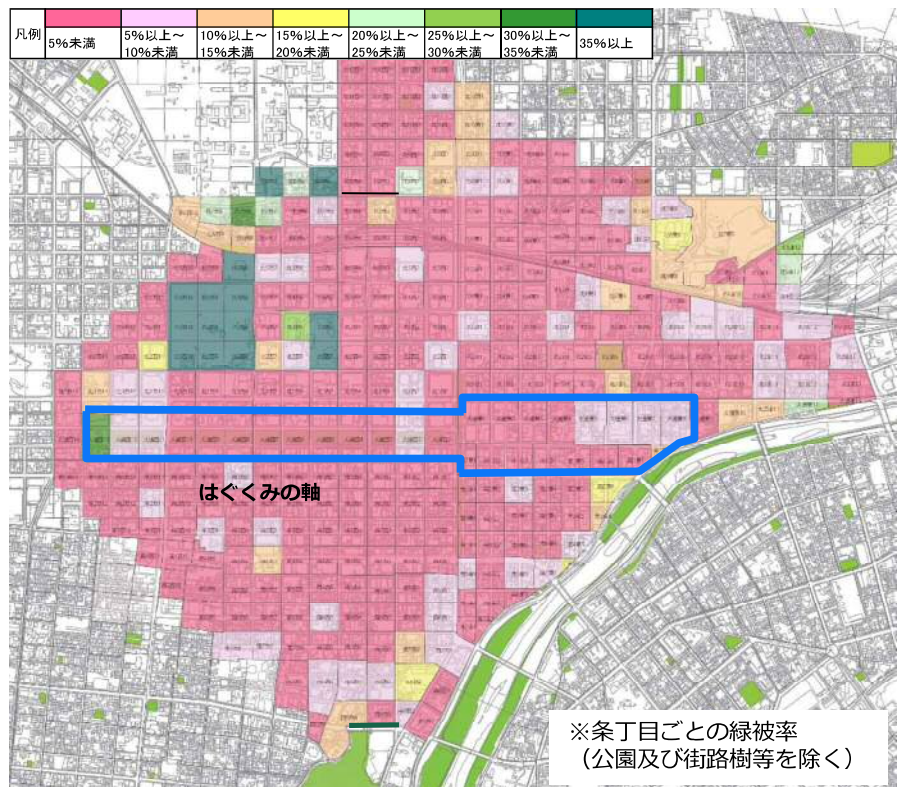


景観計画重点区域図（大通地区）

抽出する視点：大通公園の「景観・観光資源」としての価値

## 11) 沿道街区での緑化空間の状況

- 対象エリア内には大通公園が立地し、**緑被率（土地面積に占める緑化空間の割合）は18.42%**である。
- 一方で、公園や街路樹等の公共のみどりを除く面積では**4.57%**であり、**沿道街区の私有地のみどり（＝緑化空間）が少ない**ことが分かる。

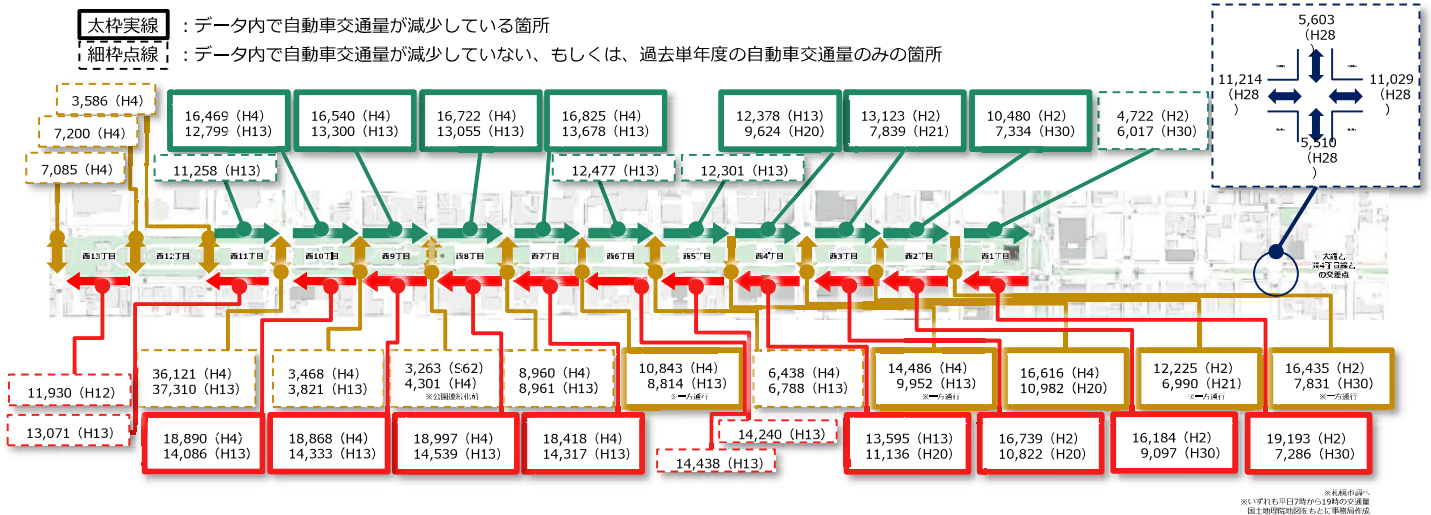


抽出する視点：「都心の魅力」を高めるみどり



## 1.2) 大通公園周辺の自動車交通量

- 大通公園沿道の自動車交通量は東西方向、南北方向ともに**自動車交通量が減少している**傾向がみられる。



抽出する視点：大通周辺の「自動車交通量の変化」

### 1 3) 沿道と公園の関係

- **沿道と公園の機能的な連続性は見られない。**
- 沿道から公園を眺めると、駐輪自転車が目立ち、トイレの背面が露出しているなど**景観が損なわれている**。
- さらには、路上駐車も目立ち、空間として**沿道と公園の一体感が欠けている**。



国土地理院地図をもとに事務局作成

### 1 4) 沿道の建物の状況

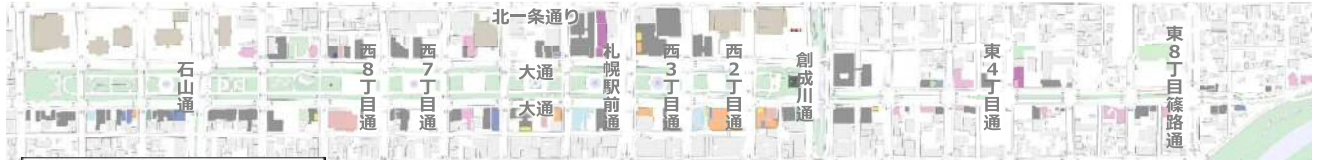
- 沿道建物は1階からオフィスとなっているものが多く、**賑わい醸成に資する飲食店や物販店などは駅前通から創成川付近以外には数件点するのみ**である。
- 2階ではさらにオフィスの割合が増加し、**現状建物では低層部における大通公園との一体感が欠けている**と考えられる。
- 大通に面して駐車場の出入口が設置されている一般利用可能な駐車場が11件、月極・契約者専用駐車場が40件、その他駐車場が3件、合計54件と多く面しており、**沿道の街並みの分断や、歩行者との錯綜の要因となっている**。

#### 1階用途色分け図



国土地理院地図をもとに事務局作成

#### 2階用途色分け図



国土地理院地図をもとに事務局作成

凡例 沿道建物用途区分	
■ オフィス	■ サービス
■ 物販店	■ ホテル
■ 飲食店	■ 銀行
■ コンビニ	■ 住宅・マンション
■ 公共施設	■ その他
■ 教育機関	◆ 一般利用可能駐車場
■ 医療機関	◆ 月極・契約者専用
■ 駐車場	◆ その他

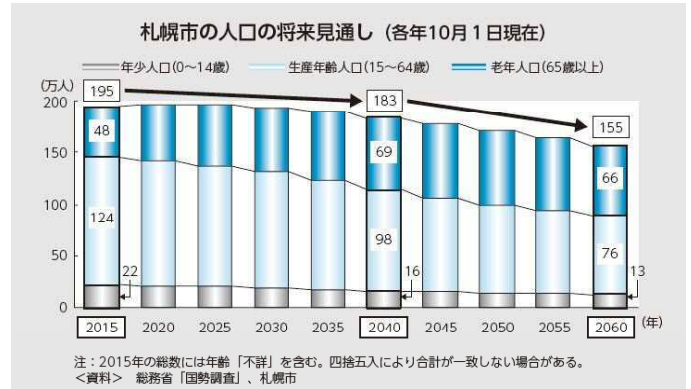
抽出する視点：「沿道と大通公園の一体感」の不足

## 2-3. まちづくりの動向

### 1) 社会構造の変化

- 札幌市の将来人口の見通しでは、総人口の減少比率を**生産年齢人口の減少比率が上回っている**。
- 札幌からの市外転出の状況を見ると、**20~29歳の若者は大幅な道外転出超過になっており、その主な理由は「就職」となっているため、「働き続けられる環境」を作ることが求められている**。
- 第2期さっぽろ未来創生プランにおいても、**「質の高い雇用創出と魅力的な都市づくり」を目指している**。

### 札幌市としての人口減少への対応



出典：札幌市「第2期さっぽろ未来創生プラン」(R2)

### 2) 「地方」の価値の在り方の変化

- ニューノーマルに対応した働き方、暮らし方の定着から、これまでの「働く場所」に力点を置いた居住地選択から、**「暮らしの質」に力点を置いた居住地選択に変化**している兆しが見受けられる。

### 地方移住への関心理由



出典：国土交通省「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会（参考資料）」(R3)

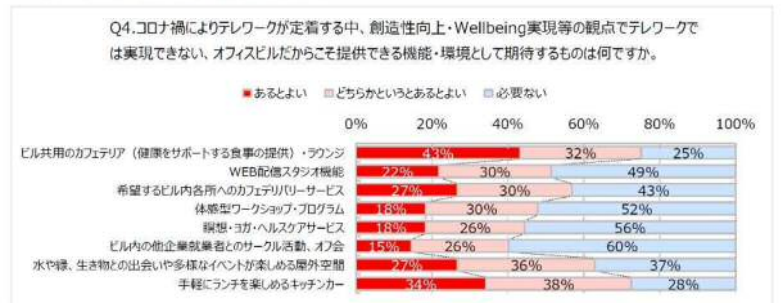
### 3) スタートアップへの支援

- 札幌市では、産官学の連携による札幌市及び北海道のスタートアップ・エコシステムの構築を目的に、**STARTUP CITY SAPPOROプロジェクトを推進している**。

### 4) これからの働く環境としての大通沿道の強み

- コロナ禍における「働く環境」に関するアンケートの多くが、**屋外空間の価値向上**が、ワーカーの求めている環境であることを示している。

- テレワークでは実現できない、オフィスビルだからこそ提供できる機能としては、飲食関連のサービスや充実した屋外空間への期待が特に高い。



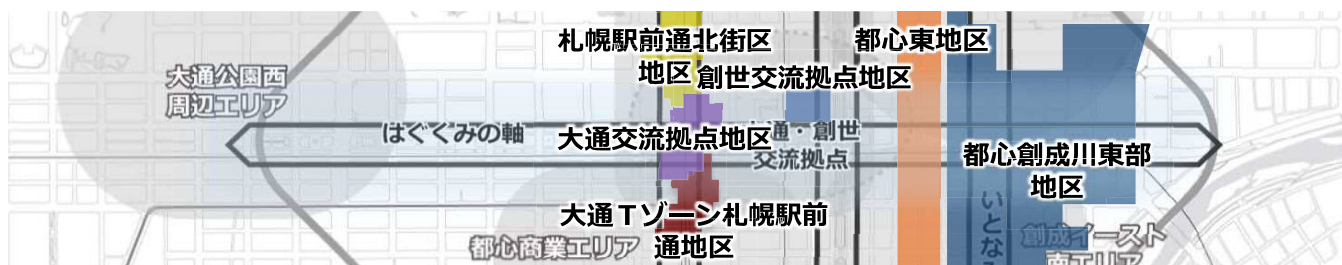
出典：三菱地所「約 5,000 人を対象とした就業者アンケート」(R3.7)

抽出する視点：「高齢者人口」の増加を見据えたまちづくり  
 「人をひきつけ、住み続けたいくなる魅力」の創出  
 国内外からの投資を呼び込む「札幌都心ブランド」の確立  
 「多様化」するライフスタイルやニーズへの対応



## 5) 形態規制・誘導用途など

- はぐくみの軸内においては、地区計画が指定されていない範囲については、形態規制は少ない。
- 誘導用途についても、緩和型地区計画が指定されている範囲においては誘導用途が指定されているが、その他の範囲については特に指定がない。

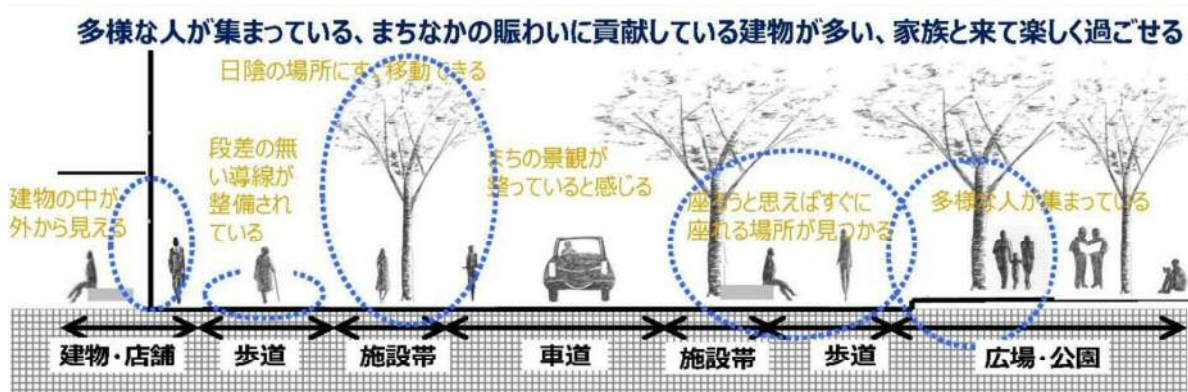


※国土地理院地図をもとに事務局作成

抽出する視点：「大通らしい景観」の形成の必要性

## 6) 居心地の良いまちなかの創出に向けた取り組み

- 国土交通省では、「地域課題の解決と新たな価値の創造のため、多様な人々が集まり、交流を促進させることが不可欠」として、人々が居心地が良く歩きたくなるまちなかづくりを進めている。
- 『「ハード環境」を改善しながら、そこに滞在する人々の「空間の快適性・魅力」に対する感じ方を向上させ、その結果として「人々の行動が多様」なものになる。』という流れで、まちなかの状況を総合的に把握する視点の整理が試みられている。



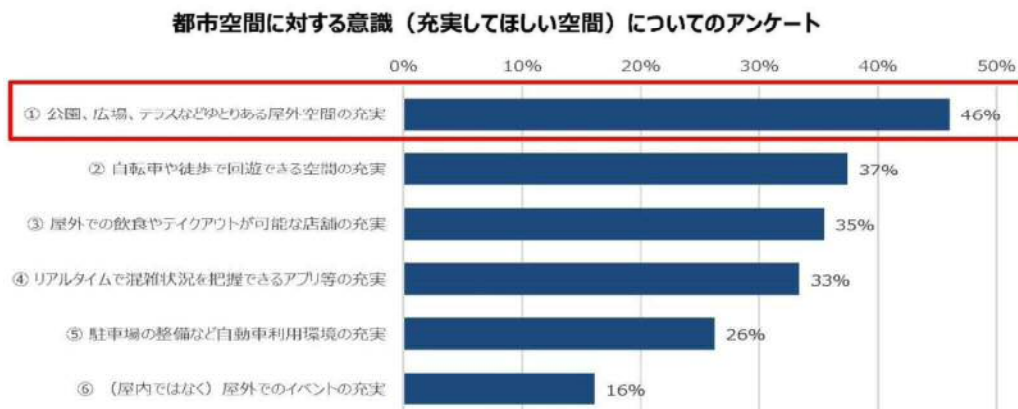
出典：国土交通省「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」（R2）

抽出する視点：「オープンスペースと連動」したまちづくり



## 7) 大通公園をはじめとしたみどりの価値の再定義

- 国土交通省の行った調査では、**今後都市空間に充実化が求められる空間として「公園、広場、テラスなどゆとりある屋外空間」**が挙げられている。



(出典) 都市局「新型コロナ生活行動調査」(令和2年8月)を基に作成

出典: 国土交通省「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会(参考資料)」(R3)

抽出する視点: 「みどりの価値の再定義」による都心のブランディング  
「オープンスペースと連動」したまちづくり

## 8) 環境首都・札幌

- 札幌市では、札幌市の自然環境や緑豊かな街並みなど、恵まれた環境をより良いものとし、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくことを目的として、「**環境首都・札幌**」を2008年に宣言した。
- また、「第2次札幌市環境基本計画」では、SDGsの視点である多様な主体との連携や、環境のみならず**多分野での成果も同時に得られる取組を進めていく**こととしている。
- さらには、「都心エネルギーマスタープラン」では、「**低炭素」「強靱」「快適・健康**」を取組の基本方針として掲げている。



出典：札幌市「都心エネルギーマスタープラン」(H30)

図 2-1 都心の将来像

## 9) 考慮すべき災害等のリスク

- 札幌市では、平成30年に発生した北海道胆振東部地震において大規模停電による「**ブラックアウト**」を経験しており、また、都心部は豊平川が洪水となった場合の**浸水想定区域に位置**していることから、**都心のさらなる強靱化を図っていく必要がある**。



出典：札幌市HP

【想定】豊平川（下流）総雨量406mm/72時間



色凡例（想定される浸水深）

（濃い紫）	: 10m以上
（紫）	: 5m～10m未満
（赤紫）	: 3m～5m未満
（赤）	: 0.5m～3m未満
（黄）	: 0.5m未満

抽出する視点：「都市づくりと連動した脱炭素化」の必要性  
「都心のさらなる強靱化」を図っていく必要性

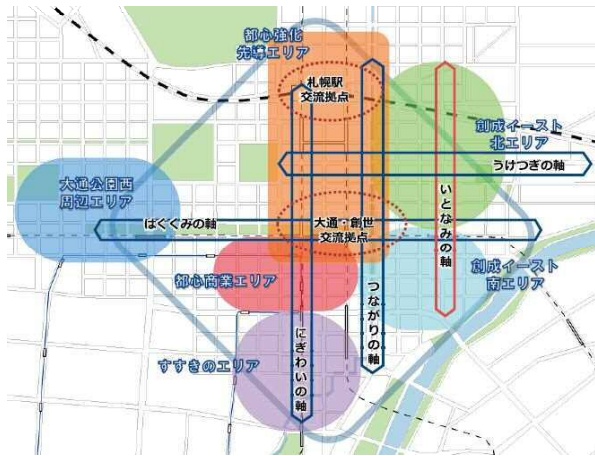
コラム：他都市の取り組み事例など

## 2-3. 関連する上位計画

### 1) 第2次都心まちづくり計画（札幌市 2016年5月策定 / 計画期間：2016年～2036年）

#### 都心まちづくりの目標

- 北海道・札幌の中核として世界に比肩する都心強化の側面から「国内外から活力・投資を呼び込む札幌都心ブランドの確立」
- 市民の暮らしの中心となる都心づくりの側面から「魅力的なライフスタイル・ワークスタイルの実現」



骨格軸	駅前通	にぎわいの軸	■都心のにぎわい・活力を象徴する沿道の機能・空間の再編と、都心強化と連動する軸双方向の起点からの高質化
	大通	はぐくみの軸	■札幌のまちを形成する根幹となる歴史を備える東西軸として、開いたみどりを中心に、札幌の都市文化や新たな街並みをはぐくむ空間の創出
	創成川通	つながりの軸	■広域からの都心アクセスを支えるとともに、豊かな環境を活かした市民の交流と、つながりの創出
	北三条通	うけつぎの軸	■札幌発展の歴史・文化を活かした街並み、空間の形成とその活用
展開軸	東四丁目線	いとなみの軸	■創成東地区の職・住・遊を支える多様な機能の複合化と創成イースト南北の回遊性の向上を支える通りの形成
交流拠点	札幌駅	交流拠点	■広域的な交通ネットワークが結節する札幌の玄関口にふさわしい広域交流を先導する拠点
	大通・創世	交流拠点	■札幌の歴史、文化芸術、ライフスタイルなどの都市文化を育成、体感できる都市文化を創造する拠点

■ : 当検討の対象となる骨格軸

■ : 当検討の対象エリアに一部重なる骨格軸・展開軸・交流拠点

#### 骨格軸

##### <大通 ~はぐくみの軸~>

##### 展開指針

- 沿道の特性に応じたみどりの空間と活用空間のメリハリのある空間の創出
- 沿道空間と一体となった中核的なパブリックスペースとしての大通の実現
- 都心東西のエリアをつなぐ、札幌の都市文化、価値を体感できる空間の創出
- 創成川以西のにぎわいを創成川以東まで波及させる連続性のある空間形成

##### <駅前通 ~にぎわいの軸~>

##### 展開指針

- 周辺のエリア特性を活かし、都心のにぎわいと活力を象徴する機能・空間を誘導
- 歩行者・公共交通を基軸とした回遊の中心軸にふさわしい機能の強化

##### <創成川通 ~つながりの軸~>

##### 展開指針

- 親水緑地空間と連動した沿道空間でのオープンスペース創出等による、都心東西市街地の連続性の強化



#### 展開軸

##### <東四丁目線 ~いとなみの軸~>

- 展開指針
- まちづくりと連動した道路空間の活用検討の推進
- 沿道の活用可能なストックを活かした生業のみえる空間創出の展開

#### 交流拠点

##### <大通・創世交流拠点>

##### 展開指針

- 都心における象徴的な都市文化拠点の創出
- 札幌の顔となる大通を基軸とした多様な活動、交流の創出
- 骨格軸を介した東西・南北市街地の連携・結びつきの強化
- 両交流拠点をつなぐ大通を一体的に魅力向上

#### はぐくみの軸に接する新たなターゲットエリア

##### <都心強化先導エリア>

- 高機能オフィス環境の整備やエネルギーネットワークの形成等により国内外からヒト・モノ・投資を呼び込み、北海道・札幌の経済発展をけん引する都心まちづくりを先導するエリア

##### <大通公園西周辺エリア>

- 大通公園を軸として、地区に集積するホール・ホテル等の交流施設を活かしたまちづくりを展開するエリア

##### <都心商業エリア>

- 沿道度面の魅力の再生と中心商業地としての歴史・伝統の活用により活性化を図るエリア

##### <創成イースト北エリア>

- 多様な生活支援サービスや起業環境の強化とともに、地区の歴史的なストックを最大限に活用し、創成川東西の市街地の連携と人々の回遊・交流を高めるエリア

##### <創成イースト南エリア>

- コミュニティの場となる神社や市場など、地区の歴史を今に伝える資源を活かした、創成イーストの魅力を高めるまちづくりを推進するエリア

抽出する視点：「エリアマネジメント活動」の展開



## 2) 札幌市総合交通計画 (札幌市 2012年1月策定 2020年3月改定 / 目標年次 : 2030年)

### 都心における今後の方向性

- ・人を中心とした安全で快適な交通環境を形成
- ・誰もが都心にアクセスできる利便性の高い交通ネットワーク形成
- ・民間の開発との連携や道路空間の再配分等により、都心部の限られた公共空間において必要な交通機能を効果的に確保



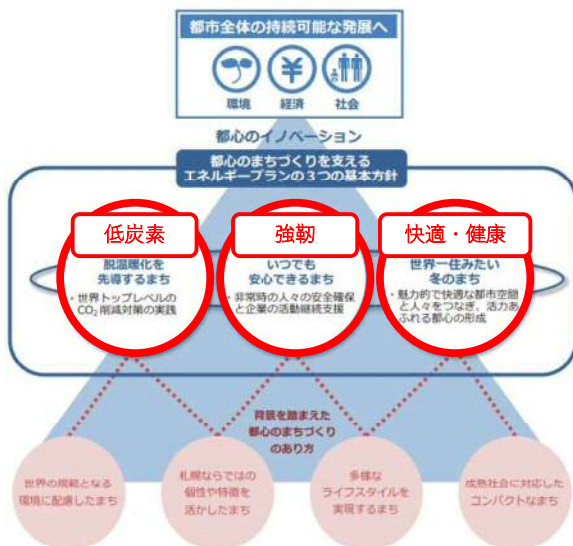
### 施策パッケージ～今後10年間に行う主な交通施策～

<b>『安全・安心なまちづくり』 パッケージ</b> <b>目的</b> 災害に強い交通環境の実現	・公共交通施設の耐震化の推進 (橋りょう、バスターミナル、JR・地下鉄の高架部) ・拠点等の幹線道路における無電柱化の推進 ・災害時等における情報提供の充実
<b>『多様な暮らし』 パッケージ</b> <b>目的</b> 自家用車に頼らなくても生活できる持続可能な地域交通環境の形成	・地域の移動手段の確保 (赤字バス路線の運行に対する補助等) ・新たな運行手段 (デマンドバス等) の導入検討 ・バス利用者の利便性向上 (ロケーションシステムの導入、待合環境の向上等)
<b>『都心まちづくり』 パッケージ</b> <b>目的</b> 人を中心とした安全で快適な交通環境の創出	・公民連携による地下歩行ネットワークの充実 ・総合的な駐輪対策の推進 (駐輪場整備、放置禁止区域拡大等) ・広場空間や道路空間を活用した賑わいの創出
<b>『観光まちづくり』 パッケージ</b> <b>目的</b> 国内外から訪れる観光客の滞在・周遊・再訪の促進	・都心と周辺部観光スポット等を結ぶ交通手段の利用環境の整備 (市内周遊バス等) ・都心に乗り入れる観光バスの乗降場・待機場の確保 ・丘陵空港新路線の誘致
<b>『広域連携』 パッケージ</b> <b>目的</b> 市内の主要都市や観光地のほか、国内外の地域と連携都市圏をつなぎ、人や物の移動を円滑化	・北海道新幹線 (新函館北斗～札幌間) の建設事業の推進 ・丘陵空港ターミナルビル機能拡充・アクセス強化などの空港利用価値の向上
<b>『環境負荷低減促進』 パッケージ</b> <b>目的</b> 自動車から公共交通機関への転換を促進	・モビリティ・マネジメントの推進 (小学校における交通環境学習など) ・SAPICAの利便性向上 (外国人観光客向けSAPICAの導入検討、マルチチャージ機等の設置等) ・公共交通の次世代連携の調査・検討

## 3) 都心エネルギーマスタープラン 2018-2050

(札幌市 2018年3月策定 / 計画期間 : 2035年度 / 目標年次 : 2050年度)

### 取組の基本方針



### 計画対象区域とエリア区分



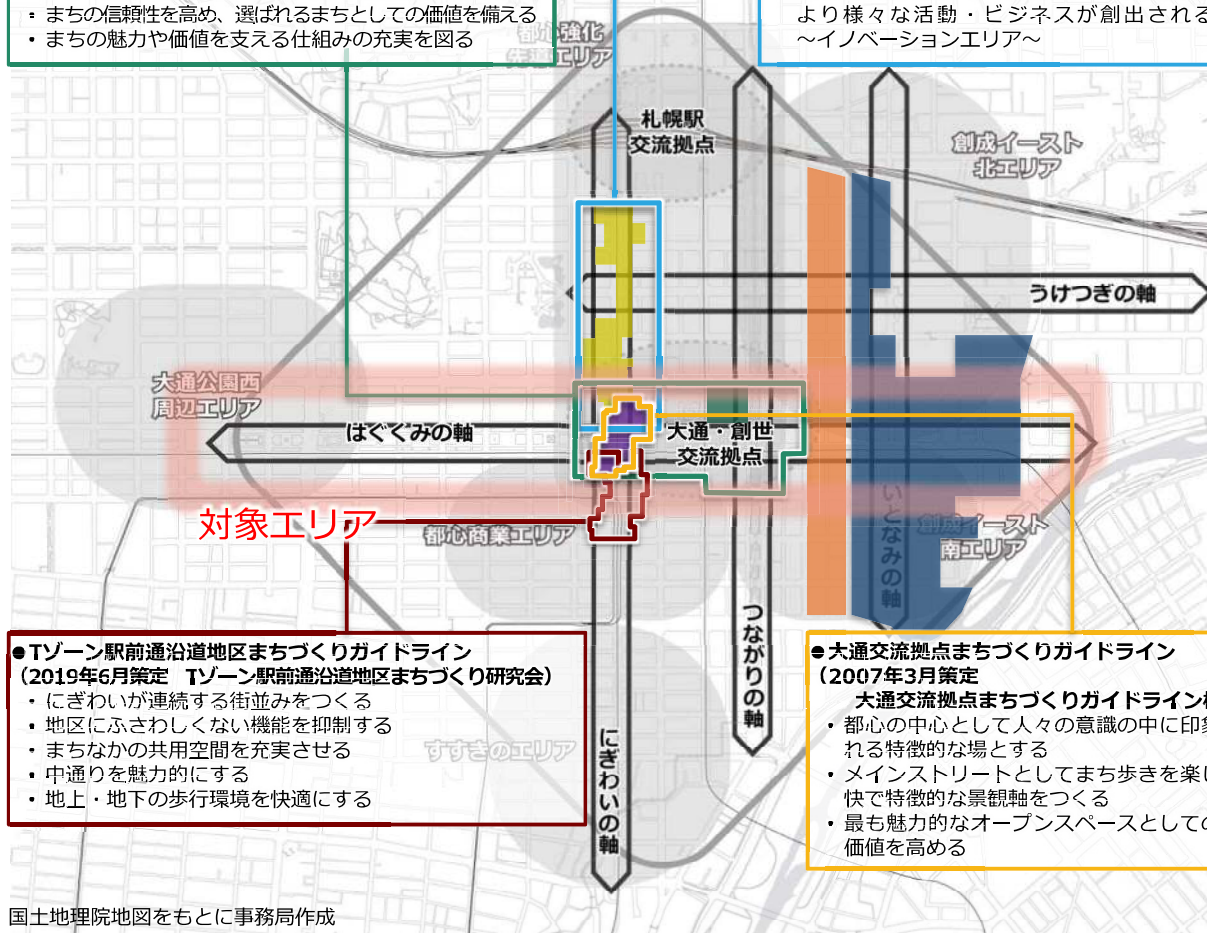
## 4) エリアごとのまちづくり計画

### ●大通沿道（東1～西4）まちづくりガイドライン\_1.0 (2020年3月策定 都市文化創造拠点まちづくり研究会)

- ・札幌を体感できる象徴的な空間を形成する
- ・きめ細かな場づくりからエリアの多様性を発揮する
- ・まちの連続性と快適性を体感できる回遊環境を生み出す
- ・まちの信頼性を高め、選ばれるまちとしての価値を備える
- ・まちの魅力や価値を支える仕組みの充実を図る

### ●札幌駅前通地区まちづくりビジョン (2019年6月策定 札幌駅前通協議会)

- ・多様な人々、企業が魅力を感じ、訪れ、交流し、何かが生み出される“まち”を目指す
- ・将来像：国内外からの多様な人々の集積と交流により様々な活動・ビジネスが創出されるまち～イノベーションエリア～



### ●Tゾーン駅前通沿道地区まちづくりガイドライン (2019年6月策定 Tゾーン駅前通沿道地区まちづくり研究会)

- ・にぎわいが連続する街並みをつくる
- ・地区にふさわしくない機能を抑制する
- ・まちなかの共用空間を充実させる
- ・中通りを魅力的にする
- ・地上・地下の歩行環境を快適にする

### ●大通交流拠点まちづくりガイドライン (2007年3月策定 大通交流拠点まちづくりガイドライン検討会)

- ・都心の中心として人々の意識の中に印象づけられる特徴的な場とする
- ・メインストリートとしてまち歩きを楽しめる明快で特徴的な景観軸をつくる
- ・最も魅力的なオープンスペースとしての大通の価値を高める

国土地理院地図をもとに事務局作成

### <地区計画で掲げられる目標>

- 都心東地区の目標
  - ・土地の合理的かつ健全な高度利用を促進し、適正な商業業務機能の充実を図ることにより良好な市街地を形成
- 大通交流拠点地区の目標
  - ・都心の中心として人々の意識の中に印象づけられる特徴的な空間と多様な活動を支える拠点の形成
  - ・明快で特徴的な景観軸であるとともに、まち歩きを楽しむメインストリートである「にぎわいの軸」形成の先導
  - ・最も魅力的なオープンスペースである大通の価値を活かした「はぐくみの軸」形成の先導
- 都心創成川東部地区の目標
  - ・土地の高度利用と併せてオープンスペースの創出や都市サービス機能の充実を促し、多様な機能が複合化した質の高い複合市街地を形成
- 創世交流拠点地区の目標
  - ・水辺空間との連携やオープンスペースの実現など、これからのまちづくりのモデルとなる都市空間をつくる
  - ・札幌の都心まちづくりを先導する地区として、文化芸術機能、交流機能等の導入による都市機能の高度化を図る
  - ・地区特性に応じたオープンスペースの整備により、魅力ある都心空間の形成を図る
- 札幌駅前通北街区地区の目標
  - ・「都心強化先導エリア」や「にぎわいの軸」で目指す都心強化に資する高次な都市機能やにぎわいを呼ぶ沿道機能の導入
  - ・重層的な歩行者ネットワーク空間の形成、軸性を演出する景観の形成
  - ・多様な活動が生まれる空間づくりを誘導するとともに「札幌駅前通地区まちづくりビジョン」の実現を推進
  - ・札幌のメインストリートとして魅力ある都心空間を創出

コラム：  
同時期に策定されるみどりづくり方針や  
まちづくり戦略ビジョン等の概要  
(方針策定時の状況に応じて今後内容を調整)

抽出する視点：「生涯健康」で活躍できるまちづくり  
次世代につなぐ「地球環境」  
都市の「リニューアル」